

槐

かい

岡井省二創刊

令和3年4月号

令和三年四月一日発行 第三十一巻第四号 通巻第三五八号 毎月一回（日発行）
平成三年五月十八日第三種郵便物認可



鯨の目

高橋将夫

雪雲に蓋をされたる盆地かな
雪原の色彩の美は影にあり
自息となりてため息美しき
鯨の目慈愛に満ちてをりにけり

自分でも驚いてをる帰り花

唇を奪ふがごとく牡蠣すする

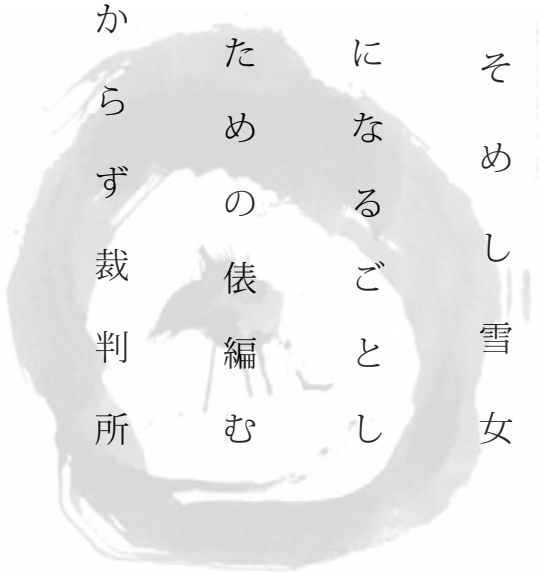
A I が恋知りそめし雪女

虚実とは氷が水になるごとし

堪忍を詰め込むための俵編む

北窓も塞ぐべからず裁判所

除夜の鐘煩惱一つ撞き忘る



日々是好日

中田 禎子

薄氷のパリンと割れて子の笑顔
籠りゐて春一番のお客さま
菜の花や軽トラツクの豆腐売り
春曙や農具の唸るこゑ響く
炎ゆれ仏頭にある春愁
シーソーの母と幼と春の風
那智黒の肌白紙に花の散る
屋久杉の座卓卯の花腐しかな
あぢさゐや熊野の句碑も漏るる中
この先は地獄極楽朱夏の門

特別作品

青 嵐 三 角 波 と 水 平 線
梵 鐘 や 海 霧 の 寄 せ 来 る 熊 野 灘
万 緑 や 野 猿 吊 り 橋 神 近 く
天 上 に 近 き 村 な り 虹 二 重
川 近 し 鳥 飼 茄 子 の ま ろ み か な
天 井 に 舟 吊 る す 家 秋 の 雨
大 鯉 や 銀 河 に 淵 の あ り に け る
草 の 絮 籬 の 外 れ し 心 か な
冬 銀 河 窓 辺 の 珈 琲 カ ッ プ か な
補 陀 落 の 海 路 悠 々 鯨 ゆ く

槐集

高橋将夫選

七草の香りへいのち新たなる

枚方 阪倉 孝子

宝船 優先席へ誘なはる

地に帰る命の色や寒椿

身のうちへ白帆立つるや人の日に

胸にある埋火抱きこもりける

寒月は二人で観ると温かい

大阪 平野 多聞

命綱は赤い糸なり雪下し

左義長や佛の顔に染められし

安らぎの寒中暖や雄牛の眸

丑の年塞翁が馬を乗り回す

ダイヤモンド富士まつたき初景色

藤田美耶子

まつさらな心に沁むる初手水

風花の運ぶ心経空の文字

若冲の鶴の眼に神気かな

目礼のマスクの下の笑顔かな

ゆるされて在ると告げをり百八の鐘

虫食ひの穴も愛でたり今朝の春

三步譲つてそれも幸せ初み空

情と言ふけつたいな物餅焦がす

冬の浜キラリと光るもの拾ふ

毎年の初夢だけは気宇壮大

初稽古ゴジラが海に火焰吹く

奏でれば世界初演の初景色

あられ炒り地獄で爆ぜる人を見る

冬眠の体の中は超伝導

冬の雷体が意志を先走る

人も木も鳥も大地も寝正月

雪だるま完成すると壊される

終止符を打つ場所違ふ深き冬

冬の夜過去の記憶を覆す

竹原 久保 夢女

守口 三木 亨

中西 厚子